

突然のオリエンテーリング指導依頼。しかも 400 名。

「とても面白かった」と生徒たち。予想以上の成果をあげた今回のサマーキャンプだった。

経緯

5 月下旬、県民の森学習長から、自宅に FAX があった。神奈川県民の森でオリエンテーリングをやりたらしいが、その指導者を探している。ついては、宿泊先が蔵王温泉で近く、ホテル支配人から電話があると思うので対応してほしい。と、いう内容だった

指導そのものは問題ないが、細部を知りたくてホテル支配人から電話が来る前にこちらから伺って話を聞くことにした。

希望しているのは横浜の桐蔭学園中学校で、実施日が 7 月 13～15 日、対象が 400 名で 1 年生から 3 年生まで男子中学生縦割りグループ指導というところまでわかった。

1 週間後の 7 月 20・21 日に同テレビンで山形場所の 3 レースを募集中で、今回も私の家族運営が決定的だし、日程が厳しいが独断で引き受ける事にした。

競争性排除の条件

準備期間が少ないので、面識がないまま担当教師と電話や FAX での交渉が始まった。

予算が未定らしいので、400 名参加の一般的大会に準じて見積書を送付したら、少し驚いた様子で実施に消極的になってきた。そこで、地実質経費のみで、器材も無料貸し出し、指導もボランティアで全面協力、とにかくオリエンテーリングをやらせる事に妥協したが、今度は、校長から総合学習の一環としての行事なので『競争性の排除』が要求されてきた。担当の教師は、いかにもすまなさそうな口ぶりだったが最近の筆者は、子供達にオリエンテーリングをさせる事を第一義としているので、あっさりその条件ものんでやり、後に実施方法とコースの数案を提示することで折り合いがついた。

後日談だが、担当教師はオリエンテーリングをやる事自体は決心したもの

の、かなりの不安があったらしく、神奈川県協会に事前指導を要請していた。

事前指導

サマーキャンプ出発直前に、神奈川県オリエンテーリング協会の藤本氏他 3 名の指導員が、学校を訪れて以下の内容の講義をしたらしい。

- ・JOA 発行のオリエンテーリング A B C を各自に購入させてコンパスの使用方法。
- ・学校周辺マップを白黒コピーして地図の読み方。
- ・神奈川県で行われた大会マップサンプルの紹介
- ・V T R (神奈川県 T V) でオリエンテーリング説明。

講義を受けて、担当教師からコンパスの説明をしていただきましたが、若干まだわからない生徒が多く、現地でも是非、中学生にわかりやすい指導をお願いしたい。と、FAX が入った。

当日スムーズにスタートさせるため、当然、前夜のレクチャーは計画していたが、コンパスの使用に関しては重要視していない、地図の正置に補助的に使わせる説明に留め、地図読みに習熟させる事に重点を置いた。宿舍の関係で 250 名と 150 名の分割実施となったが、講義の大半を地図読みとルート選択について話をした。コンパスの使用は心配無用と言っておいた。

実施要領

総合学習としてのウォーキングを生徒の自主性を重視し、万一、未帰還グループが発生したときに、少数の付き添い教師で対応できるように以下の項目で準備した。

- ・グループは宿泊部屋単位。
- ・コース距離は 7,600m、実施時間はスタートからゴールまで約 4,5 時間。
- ・昼食 (食料) ・飲料水は各自携帯させ班長の判断で食事する。
- ・地図は前夜全員に配布しコースルートの研究をさせる。
- ・コンパスはグループに 3 個。
- ・コントロールカードを携帯させ通過のパンチする。
- ・各コントロールに通過時刻記入カードを置き、グループごと油性ペンを携帯させて通過時刻の記入させる。
- ・スタート前に学習展示館を見学して、県民の森エリアの動植物、地形・地理を理解する。

・スタートは 9:30 から 1 分間隔 2 グループ同時スタート。

- ・競争ではないが走る事は構わない。
- ・特別天然記念物の『琵琶沼』コントロールには質問に回答できる教師を配置する。
- ・数箇所のコントロールに周辺パトロール教師を配置する。
- ・ゴール必着時刻を定める。
- ・純粋なオリエンテーリングのチャレンジコースを設置する。

トレインが種類のオリエンテーリング大会に適しているのもトリム的にも面白いコースが取れるのだが、筆者の準備時間の制約その他、梅雨明けが予想される炎熱時期でもあり、数度の予想ルート踏破の結果、別紙添付したコース地図となった。雨天決行である。

実施結果と反省

生徒の意見は、とても面白かった。他の生徒にも是非やらせたい。

運動部のグループは、意識的にスタートからゴールまで食事抜きで終始走っていた。

琵琶沼の説明に配置した教師に生徒からの質問はなかった。

エリア内に耕作地を持っている農家の方から挨拶と礼儀を褒められた。

大勢の生徒が同じルートを取って団子集団が予想されたが、グループごと自発行動を取り適当な間隔が保たれていた。

食料・飲料水を携帯しているので各グループ任意の場所で昼食等をしていった。

1 年生から 3 年生までの縦割りグループなので体力に差が生じて途中脱落する生徒が出た。

2 日目は雨の中で実施したが、リュックの防水カバーを準備する必要がある。

教師の意見。今後、県民の森で実施する場合は、オリエンテーリング形式については問題がないので、時間を区分して学習する時間を少々にして、生徒が興味を示している競争させ、その区間を限定してでも本来のオリエンテーリングをさせたらいいのじゃないか。

今回の設定者としても、学年単位でコースを設置する事も一つの方法だし、走らせる事に疑問を持つ教師のために、トリムを予想したコースにしておいて、尚且つ、走る生徒に対応したオリエン

テーリングコースを設定する事を提案していきたい。

協力者

1) 今回、とても急な事だったのですが、特別天然記念物管理者の山形県立博物館の地学担当者から、平成5・6年度に山形県が、琵琶沼の環境・植物・地学・動物について実施した「琵琶沼緊急調査報告書」の提供を頂きました。事前要請すれば専門員の派遣説明も受けられる事が判明した。

2) テレインの県民の森は、県有地ばかりではなく、寧ろ、山形市市有地や多くの地権者が所有する民有地が入り組んだ複雑なエリアで、(財)山形県みどり推進機構の理事長の尽力や学習展示館所長・職員の休日出勤による展示館開館の配慮があった。

3) 宿泊ホテルは、社員3名をバトロール要員として車両1台とともに差し出してくれた。

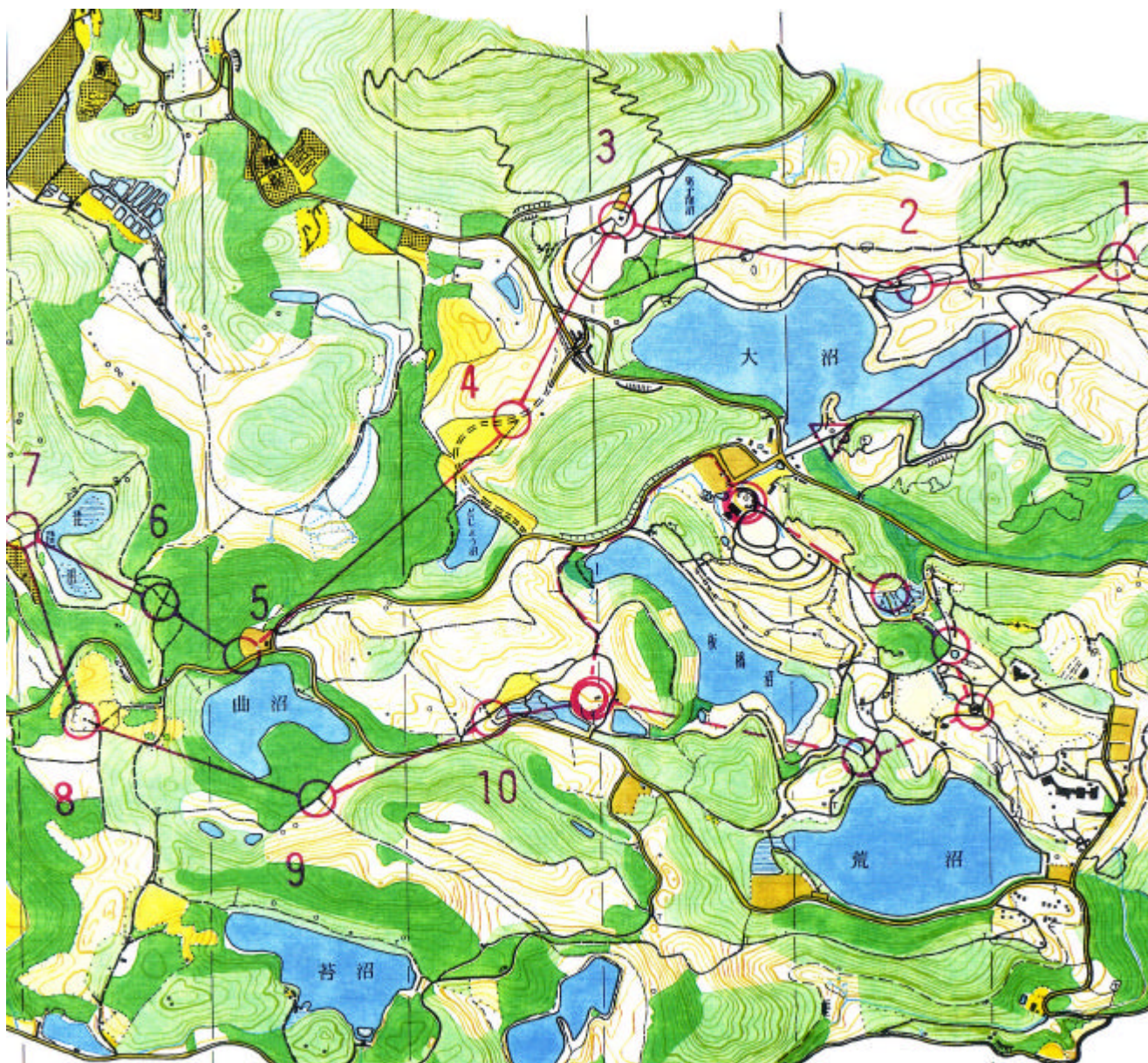
4) 山形県協会は、会員の任意で

1名のアシスタントの協力があつた。

結言

小・中学生にはこんなオリエンテーリングが受けるのではないかと考えているところに飛び込んできた。十分な準備時間は少なかったにもかかわらず、ほぼ構想どおりに進められ予期以上の成果があつた。

桐蔭学園では来年も実施希望だし、近く、年初頭のスキーキャンプでスキーオリエンテーリングを実施する方向で検討に入っている。



桐蔭中学校 サマーキャンプオリエンテーリングのコース